

いくつかの、個を生かす実践上の課題の中で、徐々にではあるが、学級規模の適正化は改善されつつあるところである。

しかし、「教師の意識変革と指導方法の改善」や「学習内容・方法の多様化、弾力化」などの問題については、各学校に委ねられているというのが実情である。

これらの現状を踏まえた上での個を生かす学年・学級経営を進めるための視点はどうか。本研究では、全教連福島大会確認事項（H.2.1.24～1.26）の「個を生かす4つの視点」を手がかりとして、下記に示す事項を設定し「個を生かす学年・学級経営のあり方」を究明することにした。

研究の視点

学年・学級経営を進める上で、認知的側面と情意的側面の調和を保ち、他者受容・自己表出を基盤にした社会性を持ち、主体的・自立的に活動できる実践力を備えた「個性豊かな児童生徒」を育成するには、次の4点に着目して指導していく必要がある。

- ① 個の存在を認め、個の存在を大切にすること。
- ② 個の特性をとらえ、生かす内容・方法を明確にすること。
- ③ 認知面に偏ることなく、情意的側面との調和を考えた実践活動のあり方を探ること。
- ④ 個性豊かな生き方のための基礎・基本の習得を重視する内容・方法を探ること。

4. 研究の年次計画

<第1年次>（平成2年度）

- (1) 「個を生かす学年・学級経営」を推進するための研究課題及び研究内容を検討し、研究構想を樹立する。
- (2) 文献等による理論研究を踏まえて、「調査研究の基本的構想」を立案し、課題解明のための調査を実施する。

- ・ 調査の基本設計
- ・ 調査表の作成

- ・ 調査依頼と実施
 - (3) 調査結果を集計し、分析・考察を通して、「個を生かす学年・学級経営」の充実策を樹立する。
 - (4) 第1年次研究紀要の発行
 - (5) 充実策の検討と協力校の選定
- <第2年次>（平成3年度）
- (1) 研究協力校における「個を生かす学年・学級経営」の充実策の実践・事例収集
 - (2) 充実策の改善及び次年度の研究課題の設定
 - (3) 第2年次研究紀要の発行
- <第3年次>（平成4年度）
- (1) 前年度の研究課題を踏まえた充実策の再検討
 - (2) 研究協力校における充実策の実践・事例収集
 - (3) 研究のまとめと第3年次研究紀要の発行

Ⅲ. 第1年次研究実践内容

1. 「個を生かす学年・学級経営」に関する調査

(1) 調査の目的

「個を生かす学年・学級経営に関する研究」についての基礎的資料を得るとともに、県内の小・中・高校の教師の「個の重視」に対する意識および「個の重視」にかかわる条件整備状況等の実態を把握し、学年・学級経営の改善・充実のための資料を得ることを目的とする。

(2) 調査の視点 調査設問事項は巻末参照

<視点1> 個の存在を大切にすること

<視点2> 個の特性を生かす学年・学級経営に関すること

<視点3> 認知的側面と情意的側面の調和を図った学年・学級経営に関すること

<視点4> 個性豊かな生き方のための基礎